

番号	氏名	抱負
11	梁川 範幸	放射線技術学を追究するJSRTは他の学術団体にない大きな魅力がある。研究領域としては非常に広く、医療技術学として未だ発展途上である。学術団体としての研究成果は医療の中で非常に重要であり、国際的に情報発信しなければならない使命がある。そのためにもJSRTが推し進める国際化、つまり英語の活用を会員に理解していただくことは重要と考える。撮影部会長として画像診断領域の学術研究を推進してきたが、更なる研鑽によって国際化に向けた研究を助成したい。地方支部は、会員一人一人に配慮した細かな事業を展開し、逆に会員からの意見や要望を容易に聞き取ることができる。地方支部が活性化することで、本部事業は円滑な活動ができ更なる発展が期待できる。JSRT理事として地方支部との架け橋となり、会員が望む学術組織を目指したい。そして一人でも多くの会員が能動的に活動できる環境を整え、活性化した学会運営を目指したい。
12	本間 龍夫	私はJIRA(一般社団法人日本画像医療システム工業会)の会員として、JSRTの会員のためにJIRA側の考えを踏まえつつ、協力活動をしています。具体的にはJIRA副会長としてまた中小企業代表として、その集まりである中小・IT委員会副委員長としてもJIRA活動をしています。同時にJSRTの理事として現在二期目になります。今後もこの活動をより活発にしてJSRTへの協力と活動実績を積み上げたいと思います。この度は理事として三期目に立候補して、その職を全うしましたらJIRA会員の後継者に引き継ぎ、JSRT、JIRAの益々の発展に寄与します。
13	佐藤 智春	私は診療放射線技師として長年医療現場において放射線技術を以て患者様のためにベストを尽くしてまいりました。日本放射線技術学会は、私の放射線技術のスキルアップには欠かせない学会であり、本学会がなければ今日の私は存在しなかったと思います。今こそ、本学会の運営に理事として参加し、これまでのご恩返しをするとともに、私の専門分野である放射線治療だけでなく、すべての放射線技術の向上と発展に尽力を尽くしたいと思立候補いたしました。もし理事になりましたら、これまで地方部会で企画運営してきたセミナーや学術大会の経験を生かし、学術大会等のグローバル化に対応した政策にも微力ながらお力になりたいと思います。何とぞ、よろしく願いたします。
14	石田 隆行	私は、これまで画像分科会長、学術委員長、編集委員長などを任せられ、学会が目標とする放射線技術学の向上のために務めてきました。本学会で発表される多くの研究は、世界的に見ても優れたものがあり、学会のさらなる発展が期待できます。私は、学会の進展のために大事なことは、会員個々の熱意ある研究への取り組みと研究仲間との交流だと思っています。それらをより活性化するような学術大会の企画、毎月必ず手元に届く日本放射線技術学会雑誌による質の高い知識の提供、そして最新の研究論文の掲載などを確実に会員に提供することが重要だと考えています。そのために、自身のこれまでの教育・研究経験を生かし、学会の発展に貢献したいと思っています。
15	内田 幸司	本学会にも国際化の波が押し寄せ、都市部を中心に数多くの講習会などが催されています。しかし地方では、国際化も含め、全ての会員が学会主催の教育プログラムの恩恵にあずかることは極めて困難です。私は、本会の編集委員会やプログラム委員会に加えて県技師会の企画委員も担当しており、そのことを痛感しています。今後は、今年の総会(JRC2016)で行われたWeb参加方式をさらに推し進め、日本のどこからでも知識を得ることができるシステムを作り出すことが重要であると考えています。また、放射線技術学領域は様々な分野に細分化されているため、その分野に特化した団体と足並みを揃えることも重要であると考えます。今後更に魅力のある学会にするためには地方や次世代の会員の声にも耳を傾ける必要があり、その代弁者の一人として学会の発展・運営に尽力します。